

第19回全日本実業団女子・高壮年剣道大会

平成28年3月5日(土)
東京武道館
主催 全日本実業団剣道連盟
撮影 窪田正仁

前回、前々回大会と連覇を果たしているパナソニックは、昨年までに実に6年連続のベスト4入賞という優れた戦績を残していた。近年の女子実業団剣道界では他を寄せ付けぬ強さを誇っていたパナソニックだったが、今年は関連会社すべてがベスト8を前に敗退。その牙城が崩

れた。大会はベスト4に進出したチームのうち3チームが初入賞という混戦模様となり、激闘の末に日本一に輝いたのは、これが大会初入賞となる三菱東京UFJ銀行(大手町)だった。この大会には今春入社予定の選手も出場可能だが、大手町

チームのメンバーは3名全員が新人。入社前のルーキーたちがいきなり実業団剣道の頂点に輝いた。チームを率いた城田知明監督は初優勝の喜びと驚きを語る。「先鋒の斎藤が明治大学出身、中堅の古谷田が東京学芸大学出身、大将の五十嵐

が日本体育大学出身。今回優勝したメンバーはまだ入社していない選手なので、まさかここまでやってくれるとは。会社には剣道による採用制度はないのですが、引き続き剣道部の学生たちと接点を持つて強化に努めていきたいです」



初優勝の喜びに沸く三菱東京UFJ銀行陣営

新人揃えた 三菱東京UFJ(大手町)がいきなりの日本一

チーム	順	先	中	大	得点
三菱東京UFJ (大手町)		斎藤	古谷田	五十嵐	2
		⊗		⊗×	3
大同特殊鋼 (本社)			⊖ド		2
		吉田	藤野	吉本	1

【大将】五十嵐(三菱東京UFJ大手町)②— 吉本(大同特殊鋼本社)

▼どちらが勝っても初優勝となる対戦は、大将戦へと勝負がかかる。初太刀、長身の吉本の出ばなメンに旗が一本上がるが、相メン勝負は五十嵐の勢いが勝った(写真)。二本目となり、吉本が勢い良く攻めて出たがこれを読んで五十嵐がメンを打ち込んで後方にさげれば一本となった



最優秀選手に輝いたのは五十嵐選手。左沢高校(山形)、日本体育大学を卒業し、三菱東京UFJ銀行へと新天地を求めた新人だ

チーム	順	先	中	大	得点
三菱東京UFJ (大手町)		斎藤	古谷田	五十嵐	1
		⌘	⌘	⊗	1
福岡トヨペット (A)					0
		宮崎	行方	平松	0

【大将】五十嵐(三菱東京UFJ・大手町)②— 平松(福岡トヨペット・A)

▼両チームともに今回が初のベスト4進出となる。決勝進出をかけた戦いは互いに警戒心が強く、先鋒、中堅と引き分けが続いた。大将戦、ここまで粘り強い戦いを見せていた平松だったが、ここでは五十嵐の勢いが勝った。スピードのあるメンを決めた五十嵐(写真)。この一本で三菱東京UFJ銀行が勝利



【大将】吉本(大同特殊鋼・本社)②— 村岡(NTT)

▲実業団大会では強豪として名を馳せるNTTに対して今回が初入賞となる大同特殊鋼が先鋒戦を奪う。勝負どころの大将戦は村岡の果敢な攻めも目をひいたが、吉本のメンが炸裂。その後、時間終了を迎えた(写真は吉本の攻め)

チーム \ 順	先	中	大	得点
大同特殊鋼 (本社)	吉田	藤野	吉本	2
	⑮	✕	②	2
NTT				0
	若度	小澤	村岡	0



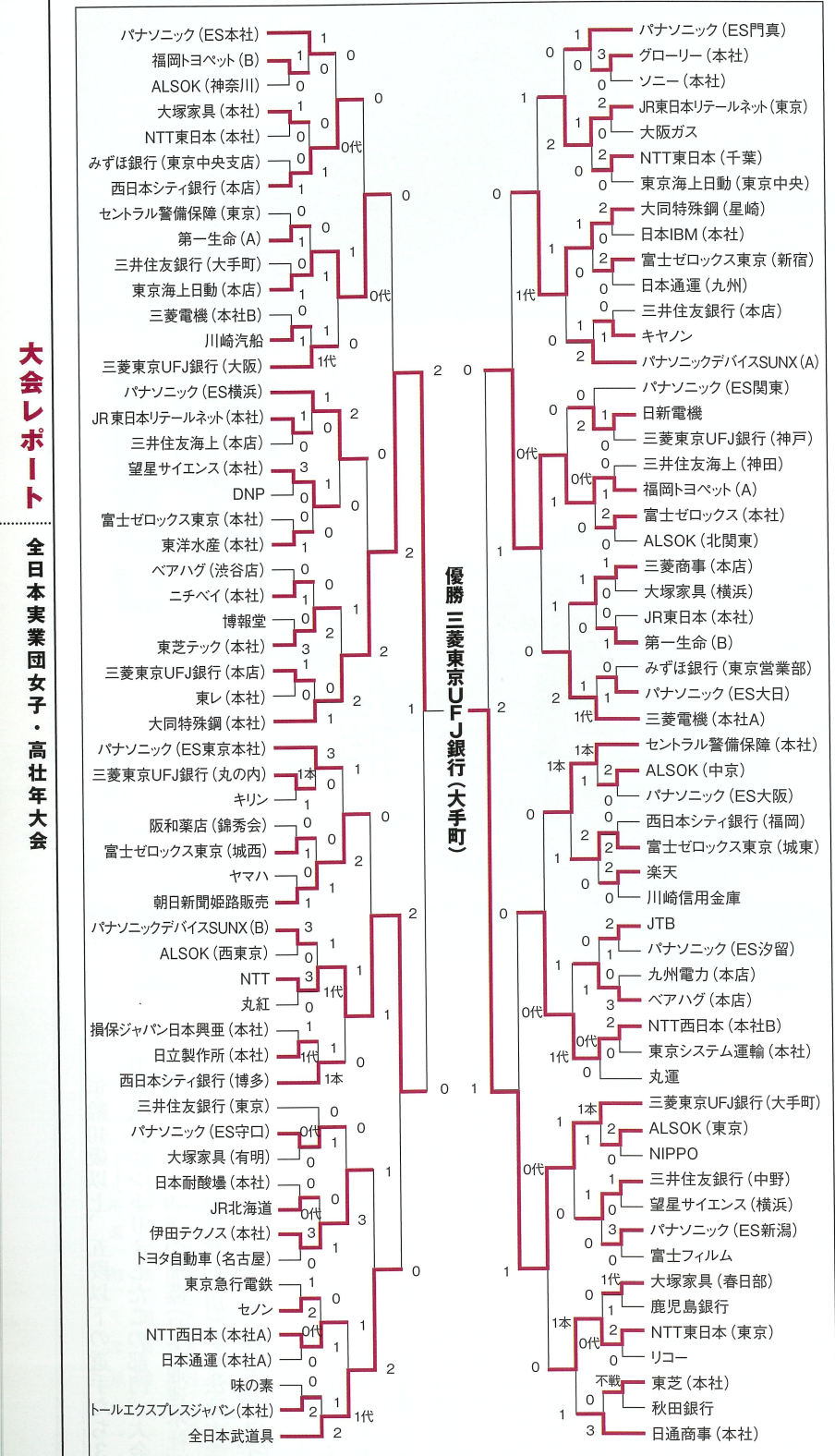
2位 大同特殊鋼(本社)

吉田真悠(20歳)、藤野志保(25歳)、吉本知代(25歳)。監督=森本善仁



3位 福岡トヨペット(A) 宮崎美美 25歳、行方智美(28歳)、平松由加里 27歳。監督=大西洋一郎

3位 NTT 雪山智美 31歳、若度智子 26歳、小澤薫(25歳)、村岡真和 26歳。監督=谷恰一





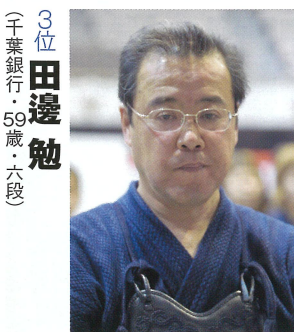
優勝 山本有樹
(東日本電信電話本社・40歳・七段)



2位 細川昭浩
(鹿島建設・50歳・七段)

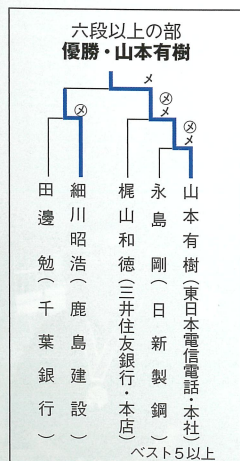


3位 梶山和徳
(三井住友銀行本店・49歳・七段)



3位 田邊勉
(千葉銀行・59歳・六段)

六段以上の部



山本(東日本電信電話・本社)メー 細川(鹿島建設)

▲初太刀のメンに審判の旗が一本上がった山本。その後もメン技を中心に試合を組み立てていく。何度も山本のメンが惜しいところをとらえるが一本には至らず、勝負は延長戦へとつれ込んだ。延長戦となっても山本の狙いは変わらない。得意のメンで攻め続けた山本が最後は力強い一本を決めた(写真)



細川(鹿島建設)②ー 田邊(千葉銀行)

▲過去に五段以下の部での優勝経験がある田邊がこの部門で初入賞を遂げた。上段の田邊に対するは3位入賞経験のある細川。上段にも臆することなく対峙した細川が田邊からメンを奪取。その後、ほどなくして試合時間終了となった(写真は攻防)

六段以上の部
本命が制す
冴えた
山本のメン

(東日本電信電話・本社)

六段以上の部

533人の選手がエントリーした戦いは、出場選手の中でもっとも若い年齢

の山本(東日本電信電話本社)が初参戦にして優勝の栄冠に輝いた。小倉南高校(福岡)から早稲田大学に進学。その後、日本電信電話(NTT)に入社した山本は関東・全日本実業団大会で残した好戦績に加え、全日本剣道選手権大会への出場経験もある実力者。初陣の戦いぶりには大きな注目が集まったが、周囲の期待に応える見事な竹刀さばきを見せた。

「昨年までは先輩の応援で観客席から試合を観ていましたが、出場選手は皆さん百戦錬磨、非常に難しそうな大会だなという印象がありました。相手は皆私よりも先輩ですから、とにかく胸を借りて戦おう、という気持ちが強かったです。自分が一番自信があるのが面技なので、それを中心に攻めていこうかなと。(決勝戦では相手に)スキがなくて、間合を詰めてくるプレッシャーも強かった。途中でこちらが退けば打たれると思ったので最後まで攻め切ることに集中しました。この大会はメンバーが毎年変わりますから、今後は毎大会違う戦いとして臨んでいかなければと思います」



優勝 加藤禎之
(日本通運本社・49歳・四段)



2位 石井丈司
(テンプスタッフ本社・42歳・四段)



3位 藤麻雄三
(三菱東京UFJ銀行大手町支店・52歳・五段)



3位 谷秀俊
(凸版印刷本社・44歳・四段)



加藤(日本通運・本社)②ーメーメ 石井(テンプスタッフ・本社)

▲準決勝の戦いに続いて石井が手数を多く出していくが、加藤はその動きをよく見て対応。鮮やかな出ばなメンを先取したのは加藤だった(写真右が加藤)。試合時間終了間際に石井もメンで一本返すが、延長戦でメンを追加したのは加藤だった。石井がコテに落ったところを鮮やかにとらえた



石井(テンプスタッフ・本社)③ーメー 谷(凸版印刷・本社)

▲過去この部門で3位入賞経験のある実力者・谷に対して石井は初のベスト4進出。経験の差で谷が勝るかと思われたが、石井が勢いで圧倒した。試合開始から積極的に攻めた石井が強烈なコテで一本先取(写真右が石井)。すぐさま出ばなメンも追加した

五段以下の部
加藤が
初挑戦で初優勝

(日本通運・本社)

年齢40歳以上、五段以下の選手たち304人がエントリーしたこの部門。大会を制したのは49歳の加藤(日本通運本社)だった。秋田西高校(秋田)から法政大学へと進学し、日本通運に入社したという加藤。

決勝では、ここまで勢いのある戦いぶりを見せていた石井(テンプスタッフ本社)と対戦した。幸先良く一本先取したが、その後は一本返される苦しい展開となるも我慢を重ねて優勝を決めた。

「この大会への出場自体が初めてです。40代最後の挑戦なので何とかひと花咲かせたいという思いで挑みました。私よりも年配の方々も数多く出場されている大会ですから、現役時代に出場した団体戦よりは落ち着いて試合ができるのかなというイメージでした。決勝戦、相手選手は年齢も7歳違いで剣さばきにもスピードがありました。まともに早さで勝負しても負けてしまうと感じたのでギリギリのところまで溜めて勝負だ。一本取り返されましたが、ここまで来たら開き直りだ、と思ったことが良かったのかもしれない。次回からは50歳代での挑戦が始まるのでまたがんばりたいですね」

